

(運輸安全委員会ダイジェスト第22号関連) ※ホームページ掲載イメージ

運輸安全委員会
Japan Transport Safety Board

A
A
音声読み上げ・ルビふり
English

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

航空 ▶

鉄道 ▶

船舶 ▶

[船舶事故ハザードマップ](#) >

[船舶事故ハザードマップ
モバイル](#) >

運輸安全委員会について

業務改善の取り組み

ダイジェスト・その他刊行物

安全情報

報道・会見

申請・お知らせ

運輸安全委員会トップページ > ダイジェスト・その他刊行物 > 運輸安全委員会ダイジェスト

○ 運輸安全委員会ダイジェスト

運輸安全委員会では、ご紹介すべき事故事例、及び各種統計に基づく分析などの内容を充実させることで、事故の再発防止・啓発に向け皆様のお役に立てていただけることを目的として、「運輸安全委員会ダイジェスト」を発行しています。

「運輸安全委員会メールマガジン」にて「運輸安全委員会ダイジェスト」発行についてのご案内をしております。

「運輸安全委員会メールマガジン」配信サービスはグローバルメニュー【申請・お知らせ】の【メルマガ配信サービス】からお申込ください。

» バックナンバーはこちら

各モードのバックナンバーは次よりご覧ください » 航空モード » 鉄道モード » 船舶モード

過去に紹介した事例は次よりご覧ください » 航空事例 » 鉄道事例 » 船舶事例

NEW 第22号《平成28年9月27日発行》

個人小型機及び滑空機の事故防止に向けて

PDF全文ダウンロード

- 全文 [1.63MB]

PDF分割ダウンロード

1. はじめに(P1) [154KB]
2. 発生状況(P2-3) [240KB]
3. 事故調査事例 (4 事例)
 - 事例① (操縦士の予期せぬ事象における要因によるもの(下降気流及びエンジン不始動により高度維持できず)) (P4-7) [882KB]
 - 動力滑空機が、曳航機から離脱後、エンジンが始動せず高度が大きく低下したため墜落
 - 事例② (燃料枯渇や機材の事前点検不備によるもの(燃料枯渇)) (P8-10) [564KB]
 - 小型機が、慣熟飛行からの帰投中、燃料が枯渇し不時着して機体を損傷
 - 事例③ (高度等の判断を誤ったもの(低高度における飛行訓練)) (P11-13) [366KB]
 - 滑空機が、必要な高度以下にもかかわらず訓練を継続したため、ハドランディングとなり機体を損傷
 - 事例④ (操縦士の思い込み(うっかり) 要因によるもの(若陸装置の出し忘れ)) (P14-15) [385KB]
 - 小型機が、慣熟飛行中、若陸した際に脚が出ておらず胴体若陸となった
4. インタビュー(P16-19) [253KB]
5. まとめ(個人小型機及び滑空機の事故防止に向けて) (P20) [129KB]